

それから十余年。ようやく授かった娘を通して、主はご自分の存在を私に示してくださいました。

「神さまはその人が乗り越えられないような試練はお与えになりません」。子どもの家在中、上村神父さまの勉強会でうかがった印象深いお言葉です。娘のことをあれこれ考えては悩んでいた私が、少しずつ落ち着きをとりもどすことができたのも、その頃からです。

あの秋の日、城北橋教会に踏み入れた一歩が、私のカトリック信者としての長い道のりの第一歩となりました。新しいいのちをいだいてから、まだ間もない私ですが、天の入り口に立つ日まで、自らの十字架を背負って神さまとともに歩んでいきたい、と思います。

洗礼式を司式してくださいました牧野眞神父様、忍耐強く私のカテキズムの学びに、おつきあいくださっている上村神父様、代母として日々暖かく見守ってくださいる後藤洋子先生をはじめ、私の受洗を祝してくださいました、すべての方々に心からお礼を申し上げます。神に感謝。

『マリア香』

テレジア 田村 由美子

その名も「マリア」と名付けられたお香のけむりが、今日もまっすぐに、また優雅にくねりながら天に昇っていきます。マリア様、長い間、私はあなたを知りませんでした。

初めて城北橋教会の門をくぐったのは昨年の復活の主日でした。カトリックの御ミサの事は何も知りませんでしたので、ミサのその形式におどろき、大勢の信者がおられる事におどろき、華やかでのごそかな神父様のご入祭と共に、ご聖水がふりかけられた事におどろき、音楽と共にミサが進んでいく事にとっても感動いたしました。

そして教会の勉強会に出席させていたたくようになりました。木曜日朝十時、上村神父様のお部屋にいつものメンバーが集まり、カトリックの勉強をさせていたたくのです。おだやかで確実に、勉強は進みます。何一つ無理はありません。

せんでした。プロテスタントとの相違も、私にとってつまずきの石とはならず、肩の力も次第に抜け、心がとても楽になりました。そして、典礼という方法を以って人間を受け止めてくださる神の愛を知りました。大きな恵みをいただいた一年でした。

共に学んだ者達で祈って迎えた入信の秘跡の祭儀では、この世ならぬ思いがいたしました。連願は延々とつたわれ、背中をしつかりと支えていた、だいていようでした。私達は悪と罪を退けて信仰宣言をし、洗礼を受けることができました。本当に全てのことに神に感謝です。

いつもご聖体を頂く時には手がふるえ、イエス様が来て下さることを体感しています。このことは私にとっては本当に不思議なことなのです。

産まれたばかりですので、皆様から特別な愛の気持ちをお願いしている事を感じて、とても感謝しております。この先、足しげくご聖堂に通うことができ、いつもご聖体を頂いて、どんな時でも神様から離れず、神の愛を知り、隣人愛を持てる・・・、そんな幸せな信者になれますようにと、マリア香のかおりの中で今日も祈っています。



今年4月の復活徹夜祭で洗礼を授かった皆さん